

西神ニュータウン研究会 会報

第244号 2025年1月

■第244回例会&第3回西区史談会例会記録

- ・日 時 2024年12月18日(水) 18:30~20:30
- ・場 所 西区文化センター 会議室3 ・参加 23名
- ・テーマ 明石の中世史 ~城館・合戦記から見た明石~
- ・講 師 木村 英昭氏 (明石史話研究会 会長)



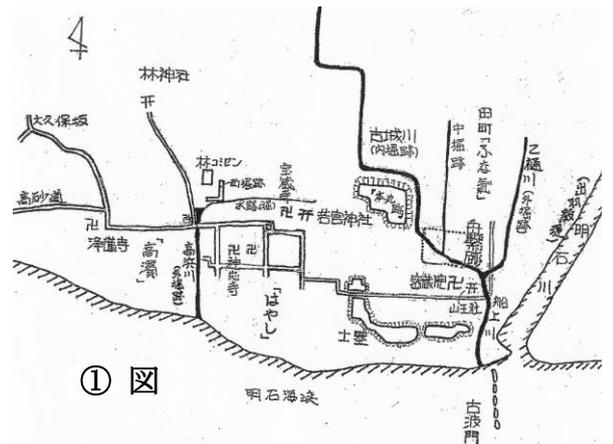
■講演内容

◆「明石」のもつ特異性について

- ・「明石」は、旧明石郡の地といえる。明石川水系沿いに広がる谷平野部と印南野台地からなる。畿内の西限は「赤石榎淵」とされており、石田善人氏はそれは須磨から塩屋・垂水の海岸線を指すと言う。
- ・明石は畿外なのに畿内と同様の扱いを受けている。姫路や加古川などとは違う。畿内人にとって、明石は畿外にありながら、自分たちの世界の範疇であると認識される特別な土地柄であった。
- ・源氏物語にも、明石入道や明石の君など明石が登場する。

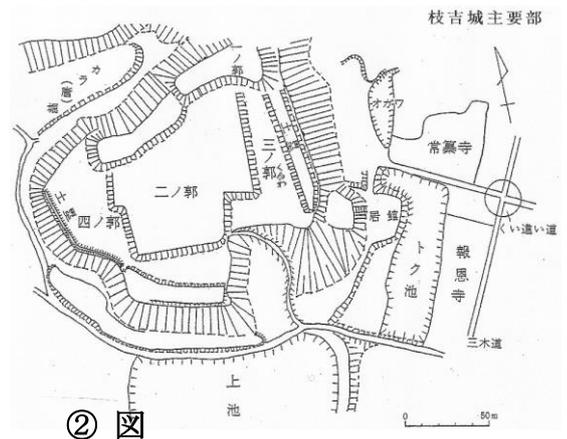
◆明石地方に点在する「城館」について

- ・明石地方(旧明石郡)には、明石海峡沿い・明石川沿い・櫛谷川沿い・伊川沿いに城館が存在する。
- ・海峡沿いには、東から大蔵谷城・人丸塚・和坂の構・林ノ城・船上城・魚住城・西岡屋敷があった。
- ・「船上城(ふなげじょう)」は、高山右近が天正14年(1586)頃築いた城である。時期としては中世というより近世の城といえる。天正13年の国替で、高槻から枝吉城に入ったのち、船上城を築いた。
- ・高山右近の築いた城は、高槻城や高岡城・富山城などがあり、本丸など主要部の周りに、二方に人工の水堀を、残りの二方に自然の湿地帯や河川などを配する特徴がある。

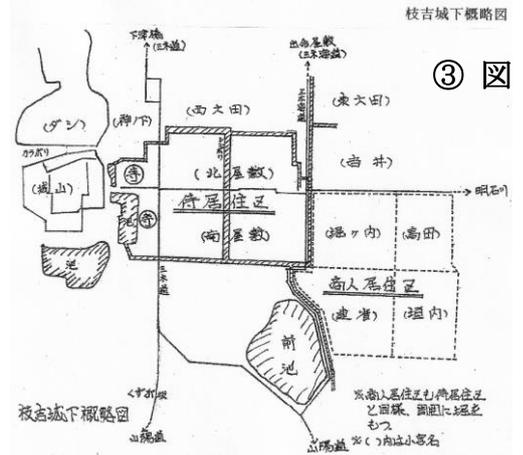


- ・総構えの平城で、城下に町と舟入を抱えていた。(①図)
- ・本丸跡と伝える微高地があり、その周囲に古城川と内堀跡が残っている。
- ・さらにその周辺には土塁跡や堀跡が見られた。
- ・「魚住城」は、中尾川沿いにあった。
- ・秀吉の三木城攻めの時には毛利軍の陣域にあつて、毛利・雑賀の軍勢を受け入れ、兵糧補給の役割を果たした。
- ・三木道の走る明石川沿いには、南から枝吉城・福中城・高和城・近江城・押部城があった。

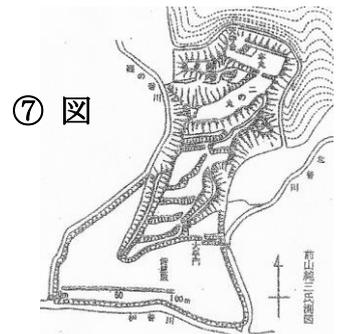
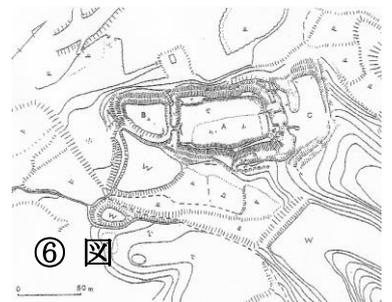
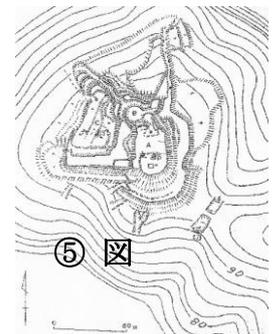
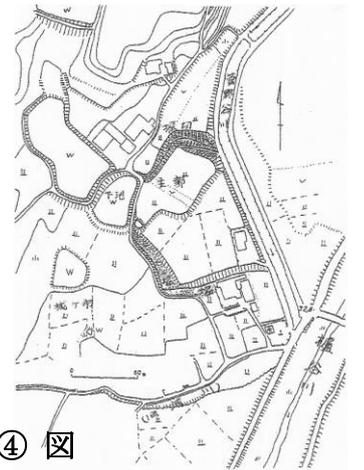
- ・「枝吉城」は明石修理亮長行が享保年間(1528~32)頃に築いた武士団明石氏の拠点城で、城下を持っていた。(②図)
(修理亮は、黒田官兵衛の母方の祖父)
- ・台地の上に城があり、一番高い北辺部に一ノ郭を設け、背後を堀切で切断し独立した台地としている。西側と南側は切崖。
- ・台地下東側から三ノ郭にかけて当主の館が構えられた。
- ・「枝吉」は今はエダヨシと読まれるが、本来はシキツと呼んでいた。周囲には下津橋・中津橋・高津橋などの地名があり、「ツ」に意味がある。三木街道も三木海道といわれていた。
- ・城の東、東西に走る大手道に沿って町を設け、家臣団と連雀商人を置いた。(③図)



- 各町は堀で囲まれており、大手道は遠見遮断のため、かぎ状に折れ曲がっていた。
- 連雀商人とは（笹原注記）
 - 室町以降、貨幣経済が発展し、街道の整備が進み、地方と都市間での行商が多くなっていった。
 - そうした商人は、道中の安全のため、護衛を連れた集団で行動するようになり、そうした集団が連雀商人と呼ばれた。
 - 戦国以降、城下町が形成されると定期的な市が開かれ連雀商人が集まるようになり、そこが連雀町などといわれるようになった。



- 「下津橋城」は、出合の宗賢神社と西光寺の所にあった。神社の北と東には土塁が残っている。
- 「福中城」は、守護家赤松氏の親族である間島彦太郎の城である。山城でもなく平城でもない岡城である。
- 檀谷川沿いには、南から菅野城・池谷城・福谷城・寺谷城があった。
- 「菅野城」は、応仁の乱で活躍した明石越前守尚行らの拠点とした城で、明石氏発祥の地とされている。（④図）
- 菅野城は、川を挟んで岡辺の館碑と対峙した場所にある。
- 「池谷城」は、寺谷城とともに衣笠豊前守範景の城であった。寺谷城より古く、曲輪が良好な形で残っている。（⑤図）
- 「福谷城」は、四方に土塁と切崖・堀切を乙もつ方形の館であった。（⑥図）
- 「寺谷城」は、端谷城・衣笠城とも呼ばれ、谷間全域を支配する城として築かれた。大堀切で屋根続きを切断、屋根の先端までを城内としている。（⑦図）
- 伊川沿いには、南から小寺城・高畑城・大山寺山城があった。
- 「太山寺山城」は、南北朝時代に築かれた城であろう。太山寺の裏山にあり、布施畑から伊川谷平野に進入する位置にあり、山越えの旧山陽道があったためか京口峠という名がある。



◆「合戦」から見える明石地方について

- 明石地方に伝わる合戦としては、カニが坂合戦・枝吉合戦・三木合戦が有名である。
- 「和坂(カニガサカ)合戦」とは、嘉吉元年(1441)、播磨・備前・美作の守護であった赤松満祐が第6代将軍足利義教を殺害した後、幕府の満祐追討軍と戦った嘉吉の乱における主戦場となった和坂における一連の攻防戦である。
- 満祐軍は和坂あたりに陣を構えていて、8月25日に総攻撃を仕掛けたものの、26日には反攻を受け、和坂を撤退し書写坂本城に向かい、さらに城山城(たつの市)に籠るが、幕府軍の総攻撃を受け、満祐は切腹して嘉吉の乱は終わる。
- 明石市史上巻には、船上山に壘を築き、人丸塚・大蔵谷・藤江の岸に陣を構えたとある。



(文責笹原)